

	【第2回】意見等・【第3回】アンケート結果	摘要
<p>第1 小中一貫教育の本市への導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■全市的に導入した方が良い ■一部の地域で良いので導入した方が良い ■導入する必要はない ■わからない 	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校は小学校として、中学校は中学校としてそれぞれがこれまで築きあげてきた人材や地域性や文化などがあると思うので、デメリットを含めた総合的な判断が必要で、慎重に検討を進めてほしい。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在の小中一貫教育がどの程度進んでいるのかがわからない。 ●併設型と連携型の大きな違いにもピンとこない。 ●阪南市内に小中一貫校が1校もないことや想像以上の少子化の進行を踏まえ、選択肢を増やすという点から一部の地域からで良いので導入した方が良い。 ●現体制で、今まで取り組んできた小中連携の実績をもとに、さらに合流する行事や教員の教育内容の研究、授業の交換などの取り組みをさらに深めるなどの取り組みが望まれる。 ●今はできなくても、たえず、状況は変化するもので、検討は怠ってはならない。 ●一貫教育が学校施設を同じにしない方法で、教育関係者、保護者、地域の協力者等それぞれの連携を深めることにより、同教育の成果と同等の成果を上げることができないのではないか。 ●ハード面、ソフト面に難しいことがあるとは思いますが、小中のつながりをスムーズにし、子どもたちの成長を長いスパンで見守れ、子どもたちの変化にも気づきやすくなるのではないかと。 ●学年ごと、小学校、中学校という区切りがなく9年間で個々に合わせたペースで学んでいくようなシステムができればいい。 ●年齢で学年が上がっていくのではなく、個々の能力を伸ばす手助けサポートをしていくような指導・体制 	
<p>メリット</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校進学時にスムーズな進級ができる。 ●中学校への進学時に、入学前説明会、学校見学、入学式などを省くことができる。 ●上級生と下級生（異年齢）の交流が増える。 ●小学校で学習につまづいた場合でも継続的なフォローが期待できる。 ●中1の壁（中一ギャップ）の解消 ●系統的、継続的な学習。 ●集団の長さ、太さ。 ●小中の教職員で補い合える（学習面、部活、見守り体制） 	
<p>デメリット</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校と中学校の教員が一人の子どもの9年間を皆で見るとなると、同一敷地内で職員室も同じとするなど、常に情報共有できる環境が必要。 ●同一敷地における課題は、一つの運動場を小学生と中学生が使用することから、中学生の部活動の時間帯は、小学生が使用できなかったり、運動会などの行事においても年齢差による体力面を考慮して運動場を使い分ける必要がある。 ●小中一貫校には2つの運動場又は広い運動場を確保できる校地の広さが必要。 ●教員の人数配分が小学校や中学校では異なることから同じ場所に集めてもうまくいかないところがある可能性がある。 ●小学校と中学校の教員免許の違いなどの制度上の課題もあり、解決には教員数増など国の後ろ盾がないと厳しい。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教諭の仕事がさらに増えるのではないかと。 ●交友関係などが途中でこじれてしまうとリセットしにくい。 ●発達段階に差による施設面での配慮が必要。 ●発達段階の差による、中学生の行動や振る舞いが小学生の心身の発達に悪影響を及ぼす可能性がある。 ●阪南市では、現校舎を活用することになっても、そのまま使用できない。 ●学校をつくる、改修するにしても、莫大な費用が必要。（ハード面での予算が必要） 	

	【第2回】意見等・【第3回】アンケート結果	摘要
<p>第2 コミュニティスクールの導入について</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 全市的に導入した方が良い <input type="checkbox"/> 一部の地域で良いので導入した方が良い <input checked="" type="checkbox"/> 導入する必要はない <input type="checkbox"/> わからない </p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもが自分の生まれ育つ地域について知ることは大切なこと。 ●導入するなら教師以外に専任の人材や部署を学校内に作って運営すべき。 ●何の策もなく（目指す方向など）導入するのは良くないと感じる。 ●今までの取組も評価し、現状をさらに充実、発展させることで不十分なのか、将来まで考えて、導入が子どもたちにとってどうなのか、地域の人々の本音はどうなのかを把握してから判断すべき。 ●既に「学校協議会」を設置し、各校長の学校経営に関する情報を積極的に知らせ、必要に応じて意見等を聴取するなかで、学校運営や経営に生かしている。 ●平成12年度から「地域教育協議会」が設置され、特色ある活動を実施している。 ●子ども福祉委員などの自主的ボランティア活動がさらに推進し広がり定着すれば、今日的課題の高齢化社会における、子どもたちの地域社会への参画の在り方や大人の学び等、地域課題解決の方策のひとつにもなる。 ●学校の存在は、昔も今も地域の人にとっては母校であり、心のふるさとで、様々な行事は思い出として残っており、これこそがコミュニティスクールであった。 ●人口減少、少子高齢化の中、人材を含め、どう組織を立ち上げるのか、現場の教職員に仕事の負担がどこまであるのかなどの検討が必要。 ●先進事例についても学び、メリット、デメリットについての確かな判断ができる研修も必要。 ●阪南市の特性、特に神社・仏閣、旧所名跡などに対する地元の方の取組や紡績、漁業などの産業への歴史的取組を地域住民等に協力を負うという形で「コミュニティ・スクール」という学校と地域が相互にパートナーとして行う「地域学校協働活動」の推進など、地域と交わった社会勉強により、学力の向上を含め子どもたちの成長により良い影響を与える。 ●現在は、学校運営に地域、保護者、子どもが関わることがなく、学校・教育委員会に任せてしまっているため、無関心になっている。 ●何か問題が起きれば学校・教育委員会の責任になり、何事も起きないように守りに徹してしまっている。 ●もっと地域、保護者、子どもも学校運営に参加して、学校について真剣に考えることが必要。 	
<p>メリット</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先生だけではなく地域の人からも学ぶことができる。 ●大人になってから子育てするなかで地域の歴史に触れたり、知らなかった魅力を発見することがあったので、そういった魅力を子どもころから知っておくとより自分たちの住む地域が好きになれるのではないかと。 ●地域、保護者、子どもが参加することで、学校に関心や愛着が生まれ、意見を聞いてもらうことで子どもの自主性・気持ちに沿った運営ができる。 	
<p>デメリット</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加してくれる地域の方の減少 ●先生方のご負担がさらに増えるだけなのではないか。 ●活動が活発になるのは良いことだが、参加して下さるボランティアや教職員の方々の負担が増えるのではないかと。 ●方策では、地域と保護者の参加ですが、子どもの参加も実現することが必要だと思う。 	

	【第2回】意見等・【第3回】アンケート結果	摘要
<p>第3 学校選択制の導入について</p>		
<p> <input checked="" type="checkbox"/> 全市的に学校選択制を導入した方が良い <input checked="" type="checkbox"/> 一部の地域など部分的に導入できれば良い <input type="checkbox"/> ブロック選択制を導入 <input type="checkbox"/> 隣接区域選択制を導入 <input checked="" type="checkbox"/> 特認校を設ける <input checked="" type="checkbox"/> 指定外就学の許可条件の見直し <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 導入する必要はない <input checked="" type="checkbox"/> わからない </p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てのなかで実際に学校選択制を経験したことがないので、一概に必要な可否判断はできない。 ●子どもや保護者にとって、公立小中学校でも学校を自由に選択できる。選択肢が広がるという点は子どもの個性を伸ばすことができる。 ●子育て世代にとって、この制度により引っ越した際に転校しなくても済む可能性が増えるメリットは大きい。 ●小学校に行かせるのに何が一番心配ですかとの質問に、学校の登下校ですとの理由が95%。やはり一番近くの学校で、帰ってきてもしょに遊べるのが、子どもの本音だろう。 『共に育ち、共に学ぶ』阪南市の熱い思いが、子どもたちに伝わるように願う。 ●現在は、行かされている感があるのが、学校を選択することで、自主性が芽生えるのではないかと期待する。 ●学校選択制の主旨は理解し、個性や持っている能力を伸ばすことは、否定しない。事例を見て研修する必要がある。 ●現場の先生や、教育関係者の方の意見を聞きたい。 ●隣市で中学生の自死があった。 	
<p>メリット</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●選択の幅が広がり「いじめ問題」等に対応できる。 ●以前に比べると中学校の部活動の種類が減ってきているようなので、子どもの得意とするスポーツや芸術などを考えて学校選びができるということに魅力を感じる。マイホームや物件選びの際、気になる校区問題などが解消される。 ●子どもたちや親が自分達が気に入った学校を選ぶことができる。 <p>この良い点は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①特色ある学校の教育を受けられる。 ②公立なので費用を気にせずに通える。 <ul style="list-style-type: none"> ●学校選択制により、学校教育への関心が高まる。 ●学校側も特色ある学校づくりに意欲的になる ●子どもも、自己決定することで学校に興味・関心がわく 	
<p>デメリット</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●通学が少し遠くなる可能性がある。 ●通学の見守りの不安がある。(通学上の安全確保。) ●希望の学校の募集人数枠を超過した場合、どのように抽選するのか。きょうだいであっても同じ学校に通えないというケースが生じてしまうのではないか。 ●希望の学校にいけるとは限らない。 ●特定の学校に生徒が集中してしまう恐れがある。 ●学校が選ばれる立場になると、学校の特色や話題性により学校間に人気の差ができ、生徒が一方の学校に偏ることが起きるため、適正な規模が保てないことになる。 ●学校間や地域間格差が発生してしまうのではないか。(学校間格差) 	

	【第2回】意見等・【第3回】アンケート結果	摘要
<p>第5 少人数学級の推進について</p> <p>■推進すべき ■どちらかというと推進した方がよい □推進する学校があってもよい □わからない</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●少人数で学ぶ方が子どもにとって良い。 ●生徒のためには、人数を減らし、学習の理解度に応じたクラスを編成し、学級運営すべき。 ●一人ひとりに目が届きやすく学習意欲の向上につながる。 ●少人数学級を実現するために先生の数を増やすことが今の財政状況で可能なのか。 ●導入する意義は <ul style="list-style-type: none"> ①新型コロナを初めとする感染症対策 ②児童生徒一人一人に注意が行き届きやすく、学習面や生活面できめ細やかな指導ができる。またGIGAスクール構想の効果を高める ③小学校で3割中学校で6割といわれている、過労死ラインに達するという長時間労働の問題の改善が見込まれる。 ●教育の質の向上については、目が行き届きやすくなる。個別指導により、よそ見や私語が少なくなる。 ●人間関係が良くなったという報告がある。 ●特に学力向上がみえたとかがないが、教師にどのような影響があり、それがどう子どもに反映するか判断できない。 ●定数が引き下げられるのだから、子どもに関わる時間が多くなることを願う。 ●先生の負担軽減が児童・生徒のためになる。 ●少人数学級というより、個々の能力を伸ばしていくような指導サポートが必要。 ●みんなが一斉に同じことができるよう、決められた手順・方法でできるようになることが、正しいこと、良いことだと教えられる。 <p>→同じような人間をつくる。 (多くの中で適応できる人間) →個性が失われてしまう。 →やってみたいことをサポートする。 →少人数学級</p>	

	【第2回】意見等・【第3回】アンケート結果	摘要
<p>第6 新しい時代に求められる教育</p> <p>■ 「阪南GIGAスクールビジョン」</p>		
<p>■ 推進すべき</p> <p>■ どちらかというと推進した方が良い</p> <p>■ 推進する学校があってもよい</p> <p>□ わからない</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい時代に対応する力が必要。 ● 現状は進んでいない気がするので、どんどん進めてほしい。 ● 一人一台端末は学習状況や地域を問わず、感染症や災害時でも学べるといった環境をもっと推進した方がよい。 ● 子どもたちが変化を前向きに受け止め豊かな創造性を備え、持続可能な社会の作り手として、予想不可能な未来社会を自立的に生き、社会に参画するための資質能力を一層着実に育成していく事が早急な課題である。 ● 阪南市は先進的に取り組んでほしい。 ● 子どもの実感も関心も違うので、興味を引きつけることができるような指導が必要。 ● 現代社会ではICTは重要であると考えるが、教育の優先部分として、子どもの教育的成長部分で重要な課題・問題点への取組は、人と人が顔と顔を突き合わせての取組が誤りのない解決方策である。 ● 少しずつ授業に取り入れているのを感じるが、手順・方法を教えすぎ。 ● やってはいけないこと、決まりが多い。 ● もっと日常的に使えるように、毎日持ち帰ったり、休み時間も使用できたりしても良い。 ● 保護者も見られるようにして、連絡用に使用、子どもの発達段階の違いで個別に宿題を出すなど、もっと活用できる。 	
<p>■ 海洋教育</p>		
<p>■ 推進すべき</p> <p>■ どちらかというと推進した方が良い</p> <p>■ 推進する学校があってもよい</p> <p>■ わからない</p>	<p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海洋教育における体験教育を全市的に取り組んでほしい。他校区の子どもたちが一度も体験できないことは理不尽。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海だけではなく、その地域に合った学習をすれば良い。 ● 実際に我が子も保育所では地引き網の体験から始まり、小学校に入ってから学年ごとに里海公園の生き物観察や海岸清掃、あまもを実際に育てる等の経験を通して環境問題にとっても興味を持つことができた。 ● 立派な歴史に残る教材である。 ● 阪南市の特性を生かした教育である。 ● 特に阪南市は、他にはない海と資源が身近にあるので、もっと子どもたちに実体験で感じて、阪南市の魅力を知って、自慢するくらいになってほしい。 ● 郷土学習の中に入れてほしい。 	
<p>■ 英語教育</p>		
<p>■ 推進すべき</p> <p>■ どちらかというと推進した方が良い</p> <p>□ 推進する学校があってもよい</p> <p>□ わからない</p>	<p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の共通語である。 ● グローバル化でこれからも必須の言葉である。 ● 就職にも有利。 ● これからは英語ができなくても様々なツールで翻訳ができる時代になってきている。 ● 大学受験が変わらない限り、授業で取り入れることも難しいとは思いますが、もっと会話を中心に取り入れてほしい。 ● 文法のクラス、会話のクラスがあればと思う。 ● 外国人と日常会話できる日本人を育成してもらいたい。 ● 幼少期から英語に楽しく慣れ親しむことにより外国へ興味・関心が高まる。 ● 試験のための能力ではなく、外国人と接することに多様性が日常的で、あたり前で、色々な考え方に興味・関心を持てるようになるために、外国人の先生（ALT）は必要。 ● 今の取組を続けてほしい。 	